

説教要旨「わたしたちの荒れ野」

ルカによる福音書3章1～14節

洗礼者ヨハネは、イエス様の道を整えるために立てられ、遣わされました。このことは裏返して言えば、救い主イエス・キリストのための道がまだ整っていないということです。人々の心は荒れ野のように荒廃しており、イエス様によって実現されようとしている神様の救いを受け止める準備が出来ていないのです。「荒れ野」はこの人々の心の有り様を象徴している言葉です。

私たち自身の中に、不安があり、不平不満や妬みがあり、人を恨む憎しみの心、人との関わりを恐れ自分の殻の中に閉じこもろうとする心があるのです。自分自身の心の中に、荒れ野を持っているのが私たちです。

ヨハネはその荒れ野に主の道を整えるために、悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。洗礼の目的は罪の赦しを得ることです。罪の赦しこそが、荒れ野のように荒廃している私たちの心に与えられる救いなのです。私たちの罪というのは、個別の悪事のことではなく、私たちの心が神様から離れ、神様に背を向けて歩んでいること。それが人の罪です。

ヨハネの教えは私たちに、主イエス・キリストの救いの恵みにあずかるためには悔い改めが必要であることを教えています。それは言い換えれば、自分の罪を見つめ、認めることが必要だということです。私たちは、自分の心に荒れ野があることは意識しています。平安を失い、愛を失い、妬みや憎しみに捕えられ、人との良い関係を築いていくことができず、むしろそれを破壊してしまうことが多いことを嘆いています。しかしそうした問題の根源に、神様に背き逆らっている罪があることにはなかなか気付きません。神様から離れていることがそれらの苦しみの原因であり、本当の解決は、神様のもとに立ち帰り、罪の赦しをいただくことなのです。

(2018・4・15 説教者：稲垣真実)